

県立学校施設再整備計画(新まなびや計画)

～ 施設再整備の考え方と基本的方向性 ～

1 課 題

- 大規模補強が必要な校舎の耐震化の見通しは概ね立ったが、小規模補強が必要な校舎及び体育館などが約 200 棟存在する。
- 県立高校の約 40%、県立特別支援学校の約 25%が築後 40 年以上経過しており、施設全体の老朽化が進んでいる。
- 県立高校の約 7 割が和式便器であり、また、排水管の老朽化等による詰まり、臭気などが発生している。

2 目 標

- 児童・生徒等の安全確保
耐震補強が必要な県立学校の校舎及び体育館等の耐震化を完了する。
- 快適で安心できる学習環境の整備
県立学校に通う児童・生徒が快適で安心して学習できる環境を整備するため、総合的な老朽化対策を実施する。
- トイレ環境の改善
県立学校の魅力向上のため、洋式化をはじめ、現代の生活様式等を踏まえた県立学校のトイレ環境の改善に取り組む。
- 特別支援学校の施設整備
児童・生徒の増加に対応するため、特別支援学校の整備に取り組むとともに、耐震・老朽化対策などの施設整備に取り組む。
- 県立高校改革の推進
県立高校改革実施計画に基づく高校の適正配置などに対応できるよう施設を整備する。

3 計画期間及び事業費

- 計 画 期 間 平成 2 8 年度～平成 3 9 年度の 1 2 か年
- 整備事業費 概ね 1 , 5 0 0 億円

4 対象及び進め方

- 対 象
「県立学校施設再整備計画」(新まなびや計画)は、学校施設(県立高校、中等教育学校、特別支援学校)を対象として、早急な対応を求められている耐震対策、老朽化対策、トイレの環境改善及び特別支援学校の整備等に取り組むものであり、併せて、県立高校改革と整合性を図るため、当該計画と期間を合わせ、県立高校改革実施計画の着実な推進を図るものである。
- 進め方
毎年度の具体的な施設整備については、本計画を踏まえ、予算審議を経て事業計画や整備手法を検討していく。

5 整備内容

- 校舎等の耐震化による安全の確保（耐震対策）

「まなびや計画」で取り組んできた大規模補強対象校舎の耐震化を完遂するとともに、小規模補強が必要な校舎や体育館など約 200 棟の耐震化を早期に完了するため、民間活力の導入を検討しながら、鉄骨ブレース補強などの耐震補強工事を実施する。
- 老朽化対策による快適な教育環境の整備と施設の長寿命化（老朽化対策）

各学校の老朽化の状況等を踏まえながら、屋上防水、外壁改修、給排水管の改修など施設の総合的な老朽化対策を実施して、施設の長寿命化を図る。また、計画前期に、不具合箇所への対応として老朽化緊急対策工事を実施する。
- 現代の生活様式等を踏まえたトイレ環境の改善（トイレ環境改善）

現代の生活様式に適合するよう各学校の施設の状況を踏まえながら、個室便器の洋式化や排水管の改修などにより、トイレ環境を改善する工事を実施する。
- 入学者増への対応や安全・快適な教育環境に向けた特別支援学校の施設整備
(特別支援学校施設整備)

入学者の増加や地域的な課題に対応するため、横浜北部方面特別支援学校等の施設整備を進めるとともに、特別支援学校の耐震対策及び総合的な老朽化対策を実施し、施設の長寿命化を図る。
- 県立高校改革に伴う施設整備（高校改革推進）

県立高校改革の推進を図るため、当該計画の進捗を見すえつつ、高校の適正配置などによる校舎の増改築や改修を実施する。

6 スケジュール

	第1期 (H28～31)	第2期 (H32～35)	第3期 (H36～39)
耐震対策	・小規模補強工事 ・大規模補強工事	・小規模補強工事	
老朽化対策	・耐震化と併せた施設長寿命化対策 ・老朽化緊急対策工事	・耐震化と併せた施設長寿命化対策 ・屋上防水、外壁改修、給排水管更新等施設長寿命化対策	・屋上防水、外壁改修、給排水管更新等施設長寿命化対策
トイレ環境改善	・便器の洋式化、給排水管更新等のトイレ環境改善	・便器の洋式化、給排水管更新等のトイレ環境改善	
特別支援学校施設整備	・横浜北部方面特別支援学校等の施設整備 ・小規模補強工事 ・老朽化緊急対策工事	・小規模補強工事 ・屋上防水、外壁改修、給排水管更新等施設長寿命化対策	・屋上防水、外壁改修、給排水管更新等施設長寿命化対策
高校改革推進	・校舎の増改築、改修	・校舎の増改築、改修	・校舎の増改築、改修